

令和2年度

学校自己評価表(計画)

学校運営計画					
学校運営方針		意欲的に自分の夢を育み、その実現に向け確かな学力を身に付けさせ、国際的な視野も備えて、社会に貢献できる人間の育成を目指す。			
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標		
(成 果) ①国公立大学合格者数は延べ109名と昨年度の58名より大幅に増加し、難関大学にも合格者を出した。国公立型でセンター試験を受験した生徒は学年の96%となった。 ②特別支援教育体制がより充実し、支援を要する生徒に対して、全職員で組織的に対応できた。 ③部活動においては、生徒がいきいきと活動し、少林寺拳法部、囲碁将棋部、書道部は全国大会出場を果たした。 (課 題) ①学力の向上 基礎学力の定着を図る。特進クラスの特色化を図る。センター試験得点率60%以上の生徒数の増加を図る。 ②目的意識・意欲の形成 3年間を見通した目標を立てさせ、意欲を醸成させる。 ③人格の完成 生活習慣の形成、社会事象に対する興味関心の育成、徳育の重視。		計画的な進路探究を通して、進路目標の明確化を図る。	①3年間を見通した進路探究活動と高い志の育成。 ②「総合的な探究の時間」による論理的思考力・判断力・表現力の確立。		
		進路目標達成のため、学力の向上を図る。	①学習習慣の形成。 ②基本事項の精査と反復学習の徹底。 ③わかりやすい授業、考えさせる授業、双方向性のある授業の実践。電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業の展開。 ④社会に対する興味関心の育成。		
		・挨拶の励行を基軸に基本的な生活習慣を確立する。 ・部活動・学校行事への主体的な取り組みを通して、健全な精神と粘り強い精神を育成する。	①挨拶の徹底を図る。 ②交通マナーを遵守させる。 ③健康維持と体力の増進を図る。		
		・保護者・地域に向けて情報提供を積極的に行う。 ・地域社会との交流を通して生徒の社会性を培う。	①秋陵会総会、親師会総会や進路講演会、学年懇談会等のあり方を工夫する。 ②ホームページや会報の充実を図り、学校の教育活動を積極的にPRする。		
	具体的目標	具体的方策			評価
(教務)	授業時間を有効的に使い、確かな学力をつける。	十分な授業時数を確保できる年間行事計画を作成する。			
		行事予定や日々の日程・時程をわかりやすく提示し、計画的に行動できるようにする。			
		授業変更を促し、自習時間を削減する。			
	正確な事務処理を行う。	各係の責任と協力(チェック)体制を明確にする。			
(生活指導)	規範意識の向上	無断での早退・外出を防止するために必ず届けを提出させる。また、時間厳守の指導を行い、けじめある生活をさせる。			
		各学期はじめに2週間の登校指導を実施し、服装の指導を中心に、挨拶の励行を行う。			
		1・2学期に学校付近の主要3ヶ所で約2週間の通学指導を行い、バイク・自転車の乗車マナーを指導する。			
		バイク通学に対して、交通安全講話と2回のバイク講習会を実施する。			
(生徒会指導)	生徒の自主性を育むため、生徒会係で助言等をし、活動の活性化に努める。	生徒会新聞を発行し、生徒会活動について生徒に広報活動を行い、行事等の活性化に努める。体育祭や秋陵祭等の行事について地域への案内も積極的に行う。			
	各種行事の充実を図り、それぞれの生徒が主体的に参加できるよう指導する。部活動への主体的な取り組みを通して健全な精神を育成する。	代議員会及び専門委員会を通して、行事等の説明を分かりやすく伝える。クラブ紹介、クラブ登録、部活動単位での学校行事への参加により部活動の活性化を図る。県総体および県外上位大会の壮行会を行い、部活動等で頑張っている生徒を全校あげて応援する。			
(保健環境)	生徒各自が自主的に健康を保持増進する能力と態度を養う。	定期健康診断で健康状態を把握させ、事後処理を行う。日々の健康観察を行い、それに即した保健指導を実施する。			
	心の健康に問題を抱える生徒への支援を行う。	多面的に情報を集め、予防的で迅速な対応をする。			
	学習環境の整備改善に努める。	清掃点検を常時行い、平常清掃の徹底を図る。また、大清掃及び屋外大清掃を実施し、校舎内外の美化整備に努める。			
	非常時の適切な対応。	避難訓練を実施し、生徒の安全誘導と人命尊重の精神を養う。救急法講習会の実施。 5月：心肺蘇生法、AED実習、熱中症対策			
進路実現 (進路指導)	生徒の進路志望を明確にさせ、それを現役で実現できるようにする。 探究活動を通じて、生徒に次代の社会を創る観点を持った資質や能力を育成する。	①生徒面談や保護者面談で生徒の希望を明確化し、必要な情報を適宜提供する。 ②各教科が弱点分野の克服ができるよう、模試結果の分析から、重点指導項目を明らかにする。 ③進路通信を年6回程度発行する。			
		国公立大志望者について、全国を視野に入れ検討させる。			
		全職員で役割を分担し、個別指導を行う。			
		①探究活動において、「研究の流れ」を体験させる。 ②研究結果を論文やレポートにまとめ上げ、発表させる。 ③発表会で他者の研究結果に触れさせる。			
地域との連携 (渉外情報)	地域と連携したPTA活動を活性化させる。	早い時期から総会の案内を出し、多くの参加を促す。			
	教育活動の情報の発信。	行事毎に、できるだけその様子をホームページに掲載する。			
	図書館活動の充実。	図書館だより等を活用して情報を発信し、利用を促進する。			
	創立100周年記念事業実行委員会の充実。	同窓会、親師会、校内と連携を密にするとともに、他校の記念事業を参考にし、本校の実態に合わせ、各分野の仕事内容を明確にし、活動を活発に行えるようにする。			
(1学年)		面談を通じて学習習慣(3点固定、教科毎の学習方法など)について指導助言する。学習課題量の教科バランスに配慮する。			

	基本的生活習慣の確立および文武両道の推進	定期的な頭髮服装検査、スマートフォン使用上の指導などを行う。また時間や提出物の期限の意義を理解させ、厳守させる。		
		めりはりのある行動や時間の使い方を意識させ、学習と部活動の両立に向かわせる。		
	思考力・判断力・表現力の育成と主体的な進路意識の涵養	各教科、総合的な探究の時間、LHR等で課題の設定や、解決の方向を論理的に考えさせ計画を立案・実行させる。また、面談等を通じ将来の進路について助言する。		
	生徒理解の充実	日常の様子や面談等を通じ、生徒を観察しコミュニケーションを多く取るなどして理解に勤める。職員間での情報共有や、組織的対応を心がける。		
(2学年)	すべての教育活動において、主体的、対話的で深い学びを通して、論理的思考力を身に付ける。また、自律的に行動できる力を身に付けるとともに、主体的な進路選択ができるようになる。	・主体的、対話的で深い学びを通して、論理的思考力を身に付ける。 ・基礎・基本を習得する。 ・論理的に考え、判断し、表現する力を身に付ける。		
		・自律的に行動できる力を身に付ける。 ・集団行動や協動的な活動の意義を理解し、自ら行動できるようになる。 ・自主的に課題を設定する力を身に付ける。		
		・主体的な進路選択ができる力を身に付ける。 ・学びたいことや、大学卒業後の進路を踏まえた上で、理由を明確にして、志望校を考える。		
(3学年)	自己実現に向けての進路希望の実現	規則正しい生活習慣を維持する中で、自宅学習時間を確保させ、大学入試に対応できる学力を養成する。		
		本格的な受験勉強への切り替えを早期にさせ、安易に志望を下げず最後まで全力を尽くす。		
		必要な情報を与え、生徒個々に応じた進路指導を行い、適切な入試方法を選択させることで、進路希望実現を目指す。		
		各教科の授業を大切にさせ、自分に適した学習スタイルを工夫することで苦手科目を克服させる		
		第一志望をあきらめさせず、二次試験に向けて複数教員でサポートする。		
(国語)	基礎学力の定着と向上	現代文分野・古典分野の2つの小テスト実施日が重ならないように設定し、効率的な予習・復習を促す。 小テストの合格基準(70～80%)に達しない生徒について、個別指導を行うことによって基礎学力の重要性を理解させ、実践力の養成につなげる。		
	大学進学に向けた実践力養成	各種小テストによって基礎力を高める。 授業・各補習講習・特編授業を入試に対応できるように充実させる。 個別指導を積極的に行う。		
(地歴・公民)	基礎学力の定着と向上	資料活用能力を高めながら、主体的に探究する姿勢を涵養し、思考力・判断力・表現力を向上させることで、知識・理解を深めさせる。		
	大学進学に向けた実践力養成	日々の授業・平日講習・夏期講習・特編授業等を通じて、大学受験に対する意識を向上させるとともに、問題演習により学力向上への意欲を高め、志望校に合格する実力を養成する。		
(数学)	基礎学力の定着と向上	授業内容を充実させる。		
		基礎学力の定着と向上に努める。		
		長期休業中や放課後に補習を実施し、成績上位層および下位層のレベルアップに努める。		
	大学進学に向けた実践力養成	大学入試共通テストの対策問題に取り組ませ、問題解決能力を磨く。直前には実践問題を繰り返し実施する。		
		長期休業中の補習や学習合宿で入試問題演習を行い、入試問題に対応できる学力を身につけさせる。		
(理科)	理科的な見方・考え方の醸成	教材開発や授業公開等を通して、授業改善と指導力の向上に努め、また、実験・観察を取り入れた理科的な見方・考え方を深めさせる。		
	基礎学力及び大学受験のための実践力養成	知識に重点を置くだけでなく、結果が導かれるまでのプロセスを重視した授業や実験を行う。授業や夏期・冬期などの補習、特編授業の問題演習を通して、生徒の実践力の養成を図る。		
(保健体育)	自らの健康を管理し、改善・向上していく能力を養う	社会における我が国が抱える健康問題・環境問題等の状況を具体的に把握させる。 生涯の各段階における健康・安全に関する課題への対応、保健・医療の制度や機関の適切な活用について理解を深める。		
	基礎的な体力・筋力の維持・向上	年間を通して、各種目に応じた補強運動や準備運動を実施する。 体力向上の目安としてスポーツテストの各種目において県平均を上回るようにする。		
(芸術)	豊かな情操の育成	素材の見分け方や生かし方を学ぶとともに、それらを生かして創作・演奏したり鑑賞したりできるようにする。		
		ICTを活用するなどし、質の高い作品に触れさせるとともに、資料や情報を提供し、生徒の意欲・興味を喚起する。また、作品の背景となる文化や歴史についても理解を深める。		
		創作意図に基づいた作品作りに取り組む姿勢を養う。また発表の場を設け、互いに批評し合うなどの言語活動を行う。		
(英語)	基礎学力の充実と向上	授業に意欲的に取り組ませ内容をよく理解させるよう、授業の改善を図る。家庭学習を充実させるよう、適切な内容の課題を課し、小テストを計画的に行う。1・2年生ではコミュニケーション能力育成に向けた指導の一環としてパフォーマンステストを行う。		
	大学入試に向けた実践力の養成	平日補習や長期休業中の補習を通して実践力の伸長を図り、進路目標の達成を目指す。大学入学共通テストや個別大学入試問題の分析・研究を行い、日頃の授業に反映させる。		
(家庭)	生活に必要な知識と技術を身につける	学習内容、プリントの内容を工夫し、できる限り個別指導を取り入れる。		
成 果				総合評価